

2/12(土)「地方創生フォーラム群馬 2022」をハイブリッド形式で開催！



関東学園大学 地方創生研究所は、毎年初春に、群馬県・太田市等と連携し、群馬県の活性化をテーマとした産学官連携による「地方創生フォーラム群馬」を開催しています。

通算 5 回目を迎えた今回は、「群馬県の地方創生と太田市での地域連携の取組み～新・群馬県総合計画に基づく産学官連携による地域活性を考える～」と題して、下記のプログラムで 2 月 12 日（土）に実施いたしました。

新型コロナウイルス感染拡大中の時節柄を鑑み、初めての対面・オンラインのハイブリッド形式による開催とさせていただいた今回は、太田市民や群馬県下のみならず、各地から幅広くご参加をいただきました。対面とオンラインをあわせて 100 名以上の参加者の皆様とともに、地方創生の可能性を探ることができました。

本フォーラムでは齋藤大二郎 関東学園大学学長・地方創生研究所所長のご挨拶を皮切りに、第 1 部では群馬県東部振興局・太田行政県税事務所の宮川博之の局長より、群馬県の地方創生と官民共創コミュニティというテーマから、群馬県の新しい総合計画に基づく産学官

連携のあり方と、太田6次産業化Labプラットフォームについてお話をいただきました。



つづいて群馬県6次産業化サポートセンターから、菅田（すげた）洋之さまから、群馬県の6次産業化の現状と課題、そして実際の事例をご紹介いただきました。



さらに第1部の締めくくりとなるトークセッションでは、関東学園大学 経済学部教授・地方創生研究所研究員である中村正明をファシリテーターとして、宮川局長・菅田さま、そして特別ゲストとして農業生産法人アグリみらい21の代表で、オリーブ生産者である山田



茂さまにご登場いただき、活発な意見交換が行いました。

第2部では関東学園大学の学生たちが、太田市を中心に実施する地域連携事業の活動をご紹介します。

【農業支援プロジェクト】



【地域イベント支援活動】



【SDGs プロジェクト】



【太田キラリ発見 Girls Instagram 発信】



【『広報おおた』『おおたのパン』取材】

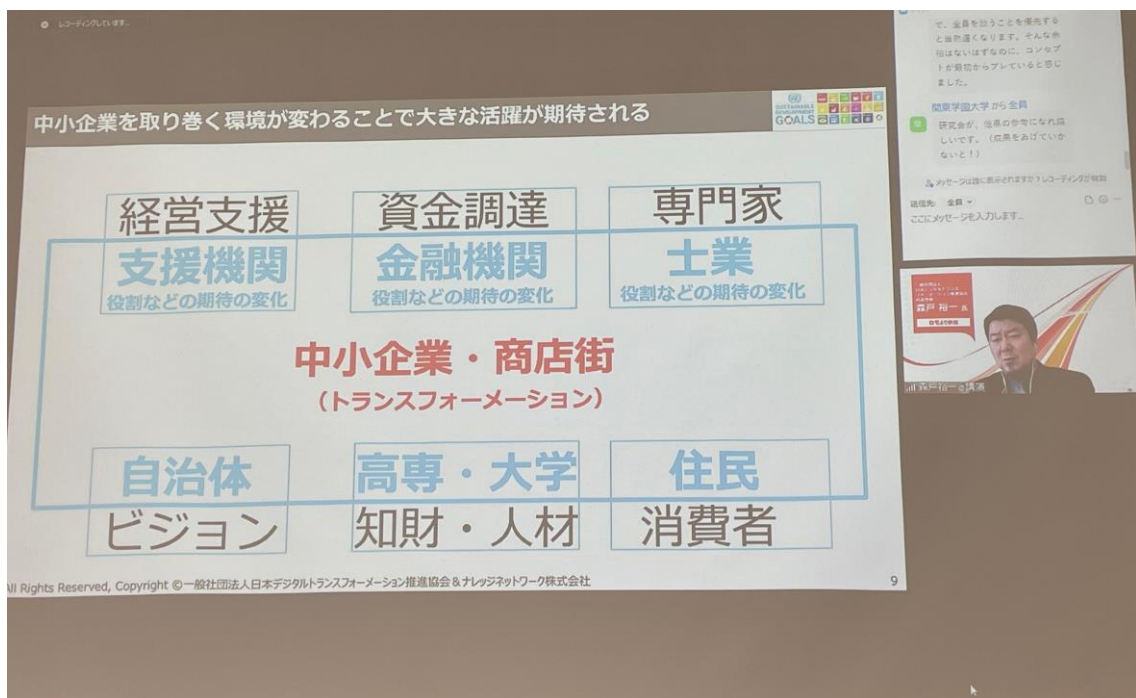


【FM TARO「太田を元気に！ SmileProject」番組制作】



農業支援、地域イベント支援、SDGs プロジェクトに続いて、太田行政県税事務所と連携した「太田キラリ発見 Girls」による Instagram 発信、太田市の広報課と連携した『広報おた』『おおたのパン』取材記事発信、そしてエフエム太郎さまにおいて放送されている「太田を元気に！スマイル・プロジェクト」の番組制作などについて、発表いたしました。

第3部では太田 ICT 地域活性化研究会から、報告と発表をいたしました。はじめに、ナレッジネットワーク株式会社代表取締役で、一般社団法人 日本デジタルトランスフォーメーション推進協会副会長・名古屋大学／熊本大学客員教授の森戸裕一さまから、「DX 時代の地域活性と企業経営」というテーマで基調講演をいただきました。



つづいて関東学園大学 経済学部准教授・同研究所研究員の中谷淳一をファシリテーターに、同研究会の進捗報告と、次年度以降の研究会のプロジェクトについて発表いたしました。



最後に、関東学園大学経済学部准教授・同研究所研究員の山根聡之から、本フォーラムの閉会のご挨拶をいたしました。

こうして全3部構成の地方創生フォーラム群馬2022は盛況のうちに終了いたしました。

本フォーラムの開催に際して、多くの行政さま・法人さまにご参加・ご後援いただいたことは本学研究所一同、望外の喜びであります。総務省関東総合通信局さま、関東ICT推進NPO連絡協議会さま、群馬県さま、太田市さま、太田商工会議所さま、太田市新田商工会さま、上毛新聞社さま、光ネットさま、エフエム太郎さま、FM桐生さま、そしてジョブラボぐんまさまにおかれましては、今後ともお引き立ていただけましたら幸いです。

本フォーラムにおいて発表いただいたみなさま、そしてご参加くださったみなさまと有益な意見交換が沢山できましたことに、心からの敬意と感謝を申し上げます。

今回もフォーラムの司会を学生が担当させていただいたことに加え、6組の関東学園大学の学生たちが、産学官連携に基づくフィールドワークの取り組み事例を発表しました。学生にとって、対面とオンラインでのハイブリッド形式での研究発表は、非常に貴重な経験になりました。

これからも地方創生研究所は、「地域連携」・「地域再生」・「地域貢献」を3本の柱として、群馬県・太田市をはじめとして、地域の活性化に役立つ教育と研究に力を入れて参ります。

【当日配布パンフレット】

一 太田ICT地域活性化研究会 進捗報告及び研究発表 一

2022
2/12
10:00~16:30
[受付9:30より]
会場:CI教室
ハイブリッド開催

関東学園大学

群馬 地方創生
フォーラム
2022

群馬県の地方創生と
太田市での地域連携の取り組み
～群馬県総合計画に基づく地方創生による地域活性化を考える～

DX時代の地域活性と企業経営
～誰ひとり取り残さない社会を創って無理ゲーじゃないの?～

講師
総務省 地域情報化アドバイザー
(一社)日本デジタルトランスフォーメーション推進協会 代表理事 森戸 裕一氏

新型コロナウイルスの感染拡大等、時代の変化に対して柔軟な対応が求められる中、デジタルトランスフォーメーション(DX)が注目を集めています。DXはしばしばIT化と混同されますが、デジタル技術を活用したビジネスモデルの変革や価値創造を目指すDXは、本質的にIT化と異なります。た、DXに含まれる要素は幅広く、紙の書類からデジタルデバイスへ移行することも、ロボットを導入することも、すべて一括りにして語られがちです。DXを理解するためには、DXを以下の3つのフェーズにわけて考えることがポイントの1つです。

- 第1フェーズ: デジタルツールの導入による業務効率化
- 第2フェーズ: ロボットやAIの導入による人手不足の解消
- 第3フェーズ: デジタルを活用し、事業や働き方そのものを変革

これらの地域活性化にはDX視点での取り組みは不可欠な要素となります。DXの本質を理解し市民が連携した取り組みが必要になります。

これからの地域活性と企業経営を考える

ファシリテーター
関東学園大学経済学部 准教授・同地方創生研究所研究員 中谷 淳一

産官学連携・ICT活用による地域活性化の推進を目的に、2019年度に関東学園大学に地方創生研究所内に太田ICT地域活性化研究会を設置しました。

本研究会では、太田市をはじめICT利活用および地域活性に関わる団体、企業、地域金融機関に参画いただき、定期的な勉強会および情報交換を実施し太田市および周辺地域における企業のICT活用促進と地域活性の両立性を検討してまいります。

3年間の研究会を経て4年目となる2022年度は、「中・小・小規模事業者の活性化が地域経済の活性化につながる」をスローガンとし、産官学が連携し実践的な地域企業支援の仕組み構築と支援を推進していく予定です。

プログラム

第1部 太田6次産業化Labプラットフォーム キックオフセミナー
10:00～ オープニング
10:10～10:40 基調講演 「群馬県の地方創生と官民共創コミュニティ:太田6次産業化Labプラットフォーム」
講師 群馬県農林部農政課長 近江 博之氏
演 「群馬県の6次産業化の現状と課題: 群馬地域の事例から」
講師 群馬県6次産業化サポートセンター 6次産業化プランナー 賀田 洋之氏
11:00～11:30 「太田6次産業化トークセッション」
荒川 博之氏×賀田 洋之氏×中村 正明(関東学園大学 教授・同地方創生研究所研究員)

第2部 関東学園大学 学生発表/太田市での地域連携事業
11:40～12:40 農業支援プロジェクト/地域イベント支援活動/SDGsプロジェクト/太田キラリ発見Girls/
[広報おた]「おたのバズ」取材記事発表/FM TAPO「太田を元気に! Smile Project」

第3部 太田ICT地域活性化研究会 進捗報告及び研究発表
13:30～14:25 基調講演 「DX時代の地域活性と企業経営
～誰ひとり取り残さない社会を創って無理ゲーじゃないの?～」
講師 総務省 地域情報化アドバイザー (一社)日本デジタルトランスフォーメーション推進協会 代表理事 森戸 裕一氏
14:30～15:55 研究会の部 「これからの地域活性と企業経営を考える」
ファシリテーター: 中谷 淳一(関東学園大学経済学部 准教授・同地方創生研究所研究員)
16:00～16:25 太田地域活性化研究会 次年度プロジェクトの紹介
16:25～16:30 エンディング

主催 関東学園大学 地方創生研究所

後援(予定) 総務省関東総合通信局、関東ICT推進NPO連絡協議会、群馬県、太田市、太田商工会議所、太田市新田商工会、上毛新聞社、光ネット、エフエム太郎、FM桐生、(一社)ジョブラボぐんま

※お問い合わせ※
関東学園大学 TEL0276-32-7800 (代表)
mail:icrr@kanto-gakuen.ac.jp
住所: 群馬県太田市桑原4町200

太田6次産業化Labプラットフォーム

事業概要

太田6次産業化Labプラットフォーム構想(案)
 ～「気づき」「つながり」によるフードイノベーション～

目的
 「食」と「農」に関わる人たちが集い、つながる「学び・チャレンジの場」を通じて6次産業化によるソーシャルビジネスを創出し、地域活性化を目指す。

テーマ
 ① 産地地消の推進
 ② 地域ブランドの創出
 ③ マイクロツーリズムによる観光振興

コンセプト
 ① 「モノ・コト」づくり(調査・研究)
 「農産物等×地域資源」によるストーリーを背景とした「食」や「体験」をつくる。
 ② 「ヒト」づくり(ワークショップ)
 地域経済における登場人物の横のつながりをつくり6次産業化によるソーシャルビジネスを創出できる人材をつくる。
 ③ 「ファン」づくり(セミナー・体験・広報)
 太田の地域資源(歴史文化、観光、生活、習俗、人など)の価値に気づき、体験を通じて愛着・共感をつくる。

構成
 ① 研究員
 目的を達成するための調査・研究を行う。
 ② サポーター
 太田行政事務事務所、太田市、太田商工会議所、太田市新田商工会、太田市観光物産協会、JA太田市、JAにまつみどり等が、各々の立場により連携・協働の支援を行う。

具体的な取り組み
 ① 調査研究・実践実験と振り返りによるテーマの調査・研究
 ② ワークショップ・調査、フィールドワーク、ソーシャルビジネスプランの発表
 ③ 優秀なプランについては、調査・研究の対象とする。
 ④ セミナー・体験……一般消費者向けの6次産業化に係るセミナー・体験の実施
 ⑤ 広報……①～④の周知

スケジュール
 令和3年度 キックオフセミナー
 令和4～6年度 太田6次産業化Lab運営
 令和7年度 プラットフォーム設置

太田6次産業化Labプラットフォームイメージ
 【協働・連携による地域課題の解決】
 関東学園大学 Lab運営・コーディネーター・人材育成
 飲食店等
 都市、農村、消費者
 道の駅等 生産者 NPO等
 メディア等 ホテル旅館等
 製造・加工・その他企業等
 群馬県、太田市
 地域振興や観光振興等各々の立場により連携・協働の支援

【多様な主体の連携・協働の例】
 生産者×飲食店等・観光施設、新商品の開発等
 生産者×消費者・観光施設、食育の機会提供等
 生産者×NPO等・活動上の課題解決のサポート等

【協働・連携による地域課題の解決】
 観光振興等各々の立場により連携・協働の支援

関東学園大学
太田行政事務事務所

SDGsプロジェクト
 廃プラスチックゴミ問題に関する学習をきっかけに、学生を中心にプラスチックストローの代替として「草ストロー」の制作販売を積極的に行っています。今後は、草ストローに限らず、SDGsに関する活動を展開していく計画です。

太田キラリ発見Girls
 2020年から群馬県、太田行政事務事務所と連携し、Instagramで地域の魅力を発信する関東学園大学の女子学生チーム「太田のキラリ」が発見されています。名所やお店、まちのキーマンを取材し、記事と写真を発信中。

「広報おおた」「おおたのパン」取材記事発信
 じつは「パンのまち」でもある太田市を舞台に、2021年から太田市の広報誌「広報おおた」のなかで毎月連載中。お困りから取材・撮影・記事作成までを学生が手がけ、1人1人得意のパンを写真と記事で発信中。

FIM TARO「太田を元気に! Smile Project」
 2021年1月1日から毎月太田市の中学生の学生制作動画、企画制作から取材・撮影・制作、パーソナリティまでを学生が手がけ、番組制作を通じて地域の人々と触れ合いながら、太田の魅力を発信中。

【2022年2月13日(日) 上毛新聞 第14面の記事より】

(第三種郵便物承認)

上毛新聞

東毛

地域活性化支援 学生6組が報告

太田 産学官が連携して地域活性化を考える「地方創生フォーラム群馬2022」が12日、太田市藤久町の関東学園大で開かれた。写真。オンラインも含めて市民ら約100人が参加し、同大の学生の活動報告や、専門家の講演に耳を傾けた。

学生は1年間、環境保全やイベント参加を通じて地域を支援してきた。この日は6組のグループが、学び得たことや今後の展望について語った。



廃プラスチック問題の解決を目指す「関東学園大SDGsプロジェクト」は、自然由来の草ストローを販売してきた。リーダーで同大2年の岸諒亮さんは「来年はさらに付加価値を付けて商品を広めたい。環境に優しい別の商品も模索する」と語った。

2年の柏倉肇さんと田村龍海さんは、市発行の「広報おおた」に地元のパン屋を紹介する連載を書いた。事前に店に足を運んでパンを食べたり、店主と会話したりして、雰囲気を感じ取ったと説明。「パンを通じて地域の人がつながっていると思った。地域のパン屋を大切に守っていききたい」と話した。

ICT(情報通信技術)を使った地域活性化の研究発表などもあった。(時田菜月)

以上

(文責: 関東学園大学経済学部 准教授・地方創生研究所 研究員 山根 聡之)

6